

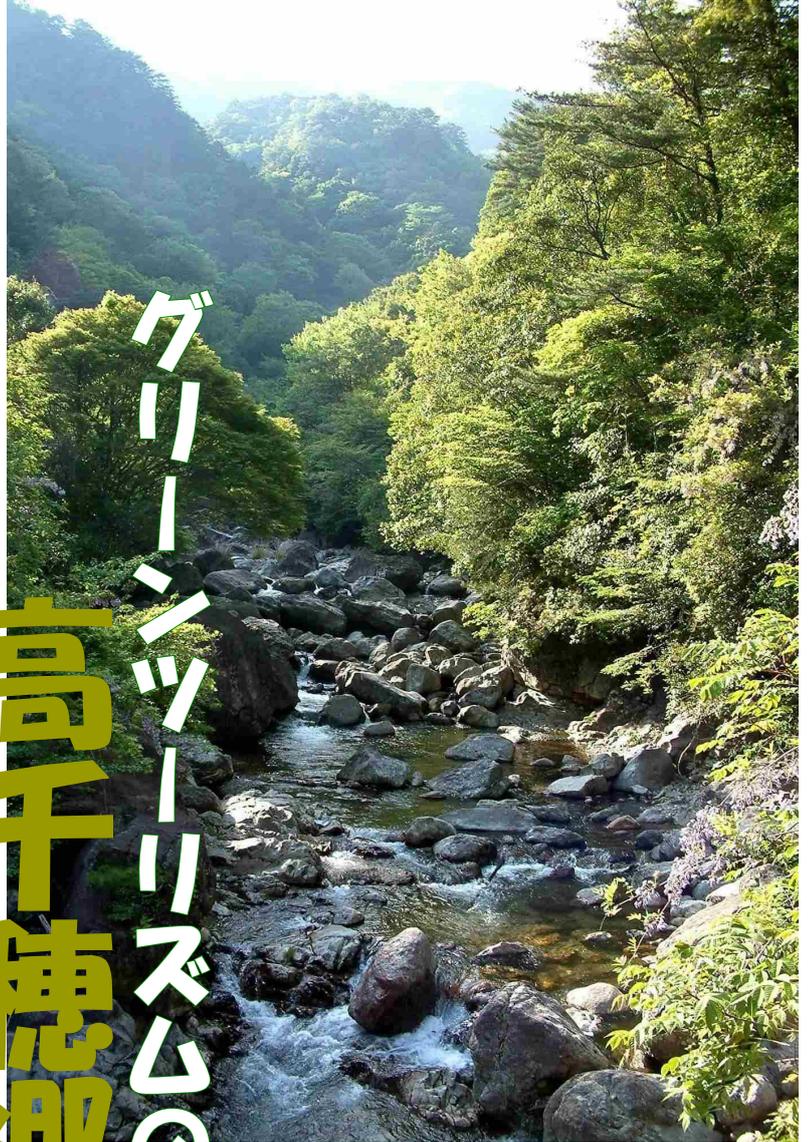
神話伝説の山里

「高千穂郷」通信

平成15年 8月号

(宮崎県西臼杵支庁)

NO.9



グリーンツーリズムの宝庫
高千穂郷



【右上から】
見立溪谷（日之影町）
ムラサキツユクサ

【左上から】
「夕日の里ふるさと体験交流ツアー」から
釜入茶体験と川遊び（五ヶ瀬町桑野内）
刈干体験の説明（高千穂町五ヶ村）
黒峰の赤ガシ（五ヶ瀬町鞍岡）



特集

7月24日、県フォレストピア森林交流館で開催された高千穂郷活性化研究会（五ヶ瀬会場）。県観光・リゾート課の長倉主查の説明を熱心に聞く参加者。五ヶ瀬会場では、「神話・伝説のふるさとツーリズム特区」の中の農家民宿を実現するための課題など具体的な問題提起が行われるとともに盛んな意見の交換が行われた。

「高千穂郷活性化研究会」

くひむか神話街道とツーリズム特区の活用く

6月に開通した「ひむか神話街道」は、神話や伝説、自然や歴史・史跡などを結ぶ広域の観光ルートであり、これからは、それぞれの地域の中にとけ込んだ神楽や祭り、豊かな自然の恵みを活かした食など、農村の暮らしそのものが、地域の新しい資源として、注目を集めるものも期待されています。

さらに街道沿線の市町村は「神話・伝説のふるさとツーリズム特区」にも認定され、農家が自宅に観光客を宿泊させる場合に簡易な消防施設でも容認されることになり、農家民宿への道が開かれました。

このようなことから、今回は「ひむか神話街道」と「ツーリズム特区」を活用した活性化策を検討するため、地域おこし団体や関係団体、役場の担当者などに参加していただき、7月下旬に管内3会場（高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町）で研究会を開催しました。

研究会では、ひむか神話街道について「PRは先行しているが道の整備は遅れている」「北の玄関口としてのPRが不足している」などの意見が、特区関係では、農家民宿に取り組む上での具体的な課題や最近話題の「どぶろく特区」についての意見がありました。

この他、イベント時の看板の規制が厳しすぎることや過疎を活用した活性化策（ERT誘致）など、様々な意見や提案が出されました。

今後は、各地域が抱えている課題や活性化策について、具体的に検討していきたいと思えます。

【ピックアップ】神話・伝説のふるさとツーリズム特区

五ヶ瀬町桑野内地区では、10年前からグリーンツーリズムに取り組んでおり、農家民宿について研究会を月1回開催したり、先進地に視察に行くなど実現に向けて、積極的な活動を行っている。

今回の特区により、消防法の規制は緩和されたが、残った大きな課題は、食品衛生法の規制。

夕日の里づくり推進会議の後藤福光さんからは、「民宿を開業する時、食品衛生法では台所を新たに整備しなければならない。私たちは、ありのままの農村の暮らしを味わってほしいし、新たな設備投資はなるべくしたくない。大分県の安心院（あしん）町では、会員制ということで新たな設備投資はせずに農家民宿（民泊）を行っている。本県でも同様なことはできないでしょうか」との意見。



夕日の里づくり推進会議の後藤さん

この意見に対し高千穂保健所の朝飛憲一衛生環境課長は、「農家民宿を業として行う限りは、当然食品衛生法の規制がかかります。食事を提供する上で、衛生上の安全を図ることは当然のことであり、お越し頂く方々に安心して食事をしてもらうためにも、施設整備は必要ではないでしょうか」と回答。

＊農家民宿については、地域の切実な課題として、今後とも関係機関と連携を図りながら研究を続けたいと考えています。



神楽の館で行われた体験神楽



参加者に好評の神楽料理



勇壮な夜神楽

高千穂町五ヶ瀬村の体験神楽

五ヶ瀬村公民館村おこしグループ（代表／工藤正任さん）では、神楽の館で体験神楽や刈り体験などに取り組んでいます。

神楽の館は、築五十年の日之影町の民家を移築したもので、通常は民宿として使われていますが、地区の神楽や各種イベントなど、地域づくりに活用されています。

方には、県内外からたくさんの方々が訪れています。

夕日の里ふるさと体験交流ツアー 2003



五ヶ瀬町桑野内では、毎年、福岡県内在住の方々を対象に夕日の里ふるさと体験交流ツアーを行っています。
 今年は、89名が参加。桑野内の住民と一緒にお茶炒りや小径木切り、ブドウの袋かけなどを体験しました。



ごかせ

桑野内の茶畑（五ヶ瀬町）



見立溪谷にある英国館



マイナスイオンに包まれた
 かもしかの森キャンプ場



英国館の室内



高千穂郷活性化研究会（日之影会場）

棚田百選に選ばれた「石垣の村」の棚田



「石垣の村」の棚田まつりで奉納された神楽



石垣の村の水車小屋

日之影町では、地域づくり団体や異業種グループ（生産者や加工業者など）が参加。「神話・伝説のふるさとツーリズム特区」や「どぶろく特区」、過疎を利用した産業振興策などについて、活発な意見がだされました。
 町では、日本の棚田百選に選ばれている「石垣の村」を活用して、棚田まつりやトロッコ道ウォーキングを開催するなど地域の資源を活かした独自の取り組みを行っています。



みどりのホームスティ贈呈式



第55回全国植樹祭が開催されるにあたり、青少年のみどりに対する愛情を育むことを目的として、みどりのホームスティ贈呈式を行いました。

西臼杵管内の3つのみどりの少年団（高千穂小、八戸小、三ヶ所小）を対象にツツジの苗木を配布し、一定期間、自宅で育て成長した苗木を、10月11日に高千穂町三秀台で開催される地域植樹祭で植樹してもらうものです。

山下全国植樹祭準備室長から、ツツジの苗を受け取った少年団の代表者は、「大切に育てます。」と目を輝かせながら答えてくれました。

8月は「道路ふれあい月間」

8月は、道路利用者に道路の役割や重要性を再認識していただくため、全国的に道路愛護運動を展開しています。道路清掃等のボランティア活動も積極的に行われており、道路美化に多数の皆様のご協力をいただきました。



西臼杵支庁でも8月6日に西臼杵管内の国道道の美化作業を実施し、30袋を超える空き缶や紙くず等を回収しました。皆様も普段利用している道路の美化にご協力をお願いします。道路美化作業を行った宮崎県西臼杵地区測量設計連絡協議会の皆さん

毎月16日は「ひむか地産地消の日」です。



「ひむか地産地消の日」とは...

地域で生産された食材を地域で消費しようという「地産地消運動」を推進する「みやざきの食と農を考える県民会議」では、「ひむか」にちなんで、毎月16日を「ひむか地産地消の日」と決めました。

宮崎県「青年の主張」西臼杵地区大会
高千穂高校の甲斐有さんが地区代表に



7月30日、五ヶ瀬町民センターで同大会が開催され、高校生と社会人9名が将来の夢や仕事のことなどについて発表しました。

高校生の部では、日頃から農業の手伝いをして将来はトレーサビリティやグリーンツー

リズムを取り入れた農業経営を目指している高千穂高校の甲斐有(ゆう)さんが、社会人の部では、剣道を通じての自分の成長や家族とのふれあいを発表した興梧優(ゆう)さんが最優秀賞に選ばれました。県大会には、甲斐さんが地区代表として出場します。

編集後記

表紙の赤ガシは、五ヶ瀬町鞍岡の黒峰登山口に向かう林道沿いにある。樹齢300年以上。幹回り6.1mは九州最大という。▶撮影の帰り、この地区で地域おこしに取り組んでいる「12区お宝保存会」の菊地会長宅を訪問した。山の懐に抱かれた静かな集落で、たたずむだけで心が癒される感じがした。▶春に行われる黒峰山開きには、地区住民総出で県内外からの登山者を出迎え、交流を行っているとのこと。リピーターが多いもの分かるような気がした。地区内には、史跡などの隠れたお宝がまだたくさん眠っているとのこと。▶活性化研究会で知り合った方々との交流を大切にしながら、西臼杵の活性化に取り組んでいきたい。

【写真提供】日之影町、五ヶ瀬町、国民宿舎高千穂荘

*西臼杵支庁の業務等について、ご意見、ご要望などがありましたら下記までご連絡ください。

◎お問い合わせ先

宮崎県 西臼杵支庁 総務課

TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760

古紙配合率100%、白色度82%を使用しています。

□支庁職員が英訳付紙芝居に初挑戦!!

高千穂町のボランティアグループ紙芝居「このとりのり」(代表:小野正道さん)は、子供たちに昔ながらの紙芝居のおもしろさを伝えようと、幼稚園やイベントなどで、紙芝居を行っています。

8月1日は、JA女性部フレッシュミズ「親子の集い」に参加。この時は初めて英訳付の紙芝居に挑戦。いつのまにか子供たちも大人も紙芝居の中に引き込まれていました。



今回は、西臼杵教育事務所・外国語指導助手のエレンさん(右端)と支庁総務課の宇都さん(中央)が初参加。昔ながらの紙芝居に英訳を付けるというユニークな試みは、好評の内に幕となりました。